

# 新型コロナウイルス感染症拡大によるスチール缶資源化への影響

○ (正) 北坂容子<sup>1)</sup>、佐久間信一<sup>1)</sup> (公) 中田良平<sup>2)</sup>

1) (株)ダイナックス都市環境研究所、2) スチール缶リサイクル協会

## 1. はじめに

スチール缶リサイクル協会とダイナックス都市環境研究所は、自治体におけるスチール缶資源化の回収や処理、量等の実態について把握するため、「スチール缶の資源化に関するアンケート調査」を行い、「スチール缶リサイクル資源化に関するレポート」を毎年発行している。

2020年4月、政府より全国へ緊急事態宣言が発令され、国民に対して「ステイホーム」「3密回避」「外出自粛」などの要請があった。翌2021年度も長期間に渡り蔓延防止等重点措置が取られ、2022年度も感染症拡大防止の対策を講じながらの生活を続けていた。そこで、新型コロナウイルス感染症によってスチール缶の分別収集や集団回収、回収量においてどのような影響があったのか、3カ年継続してアンケートを回答した自治体を対象に分析を行った。

## 2. 調査方法

調査対象：全国の市及び東京23区（815区市）

調査期間：2020年5月～6月、2021年5月～6月、2022年5月～6月

回答自治体数：419区市（回答率51.4%）

## 3. 調査結果

本稿では、2019年度～2021年度に実施した「スチール缶資源化に関するアンケート」調査において、3カ年継続して回答した自治体を対象を絞り、新型コロナウイルス感染症拡大が分別収集や集団回収に与えた影響や実態について経年を比較した。

### 3.1 分別収集への影響

2021年度は、「回収量が増えた」が9.5%、「感染防止対策のための負担が増えた」が6.4%と、緊急事態宣言下の2020年度に比べて減った一方で、「回収量が減った」が41.1%と2020年度に比べて34.7ポイント増えた。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言により、在宅勤務の増加など巣ごもり需要が増加し、家庭から出るごみや資源の排出量が増加したが、2021年度は巣ごもり需要がやや減少してきたため、家庭から出るごみや資源の排出量が元に戻りつつあるものと思われる。

表1 前年度と比べて実感すること（複数回答）

	2020年度		2021年度	
	区市数	割合%	区市数	割合%
回収量が減った	27	6.4%	172	41.1%
回収量が増えた	165	39.4%	40	9.5%
分別が悪くなった・不純物が増えた	18	4.3%	5	1.2%
分別が良くなった・不純物が減った	1	0.2%	5	1.2%
収集作業にかかる時間が増えた	29	6.9%	11	2.6%
感染防止対策のための負担が増えた	54	12.9%	27	6.4%
変化は感じない/コロナの影響はない	131	31.3%	145	34.6%
その他	6	1.4%	4	1.0%
無回答	57	13.6%	40	9.5%
回答自治体数	419	100.0%	419	100.0%

※2020年度より新規で項目を設けたため2019年度データは無い

### 3.2 集団回収への影響

集団回収の実施状況について、集団回収が「全域で継続して実施された」自治体は2020年4月時点から減っており、「実施されたが、一部地域で中止」した自治体は若干増えたが、2021年度時点においても中止されている地域が

【連絡先】〒105-0003 東京都港区西新橋三丁目15番12号 GGHOUSE (株)ダイナックス都市環境研究所  
北坂容子 Tel: 03-5402-5355 FAX: 03-5402-5350 e-mail: kitasaka@dynax-eco.com

【キーワード】資源、分別、自治体、集団回収、新型コロナウイルス

ある。2020年度は一部地域で集団回収の実施を見送るところが出てきたが、2021年度もその傾向は続いていた。

表2 集団回収の実施状況（単一回答）

	2020年4月時点		2020年度		2021年度	
	区市数	割合%	区市数	割合%	区市数	割合%
全地域で継続して実施された	246	58.7%	226	53.9%	220	52.5%
実施されたが、一部地域で中止（現在も中止）	85	20.3%	85	20.3%	120	28.6%
一部地域で中止の後、再開された			28	6.7%	21	5.0%
一時中止されたが、全地域で再開された			10	2.4%	2	0.5%
全地域で中止された	4	1.0%	1	0.2%	0	0.0%
把握していない	63	15.0%	43	10.3%	44	10.5%
その他	21	5.0%	26	6.2%	12	2.9%
回答自治体数	419	100.0%	419	100.0%	419	100.0%

※2019年度はコロナ禍前のため「2020年4月時点」で尋ねた

「一部地域で中止」「全地域で中止された」と回答した自治体の8割以上が、中止した理由を「新型コロナウイルスの影響」としてあげていた。「その他」の内容としては、回収業者の撤退や実施団体の人員不足（高齢化、参加者の減少等）などがあげられていた。

表3 集団回収を中止した理由（複数回答）

	2020年4月時点		2020年度		2021年度	
	区市数	割合%	区市数	割合%	区市数	割合%
新型コロナウイルスの影響	76	80.0%	131	87.9%	120	84.5%
その他	34	35.8%	39	26.1%	46	32.4%
回答自治体数	95	100.0	149	100.0	142	100.0

### 3.3 スチール缶回収量の変化

2019年度～2021年度に3カ年継続して回答している自治体の分別収集量と集団回収量を比較した。図1の分別収集量についてみると、分別収集量は2019年度が74,245トン、2020年度は79,112トンと増加し、2021年度は76,055トンと減少した。スチール缶生産量は近年減少傾向にあるにもかかわらず、分別収集量が増えたということは実際の増加率はさらに大きいことがわかる。2020年度以降の分別収集量の変化の要因は、上記「3.1 分別収集への影響」でみた結果同様、新型コロナウイルス感染症拡大による巣ごもり需要の影響によるものであり、2020年度をピークに2021年度もわずかに影響が残っていると思われる。

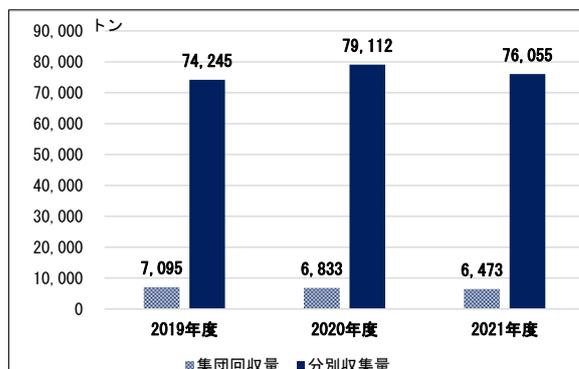


図1 スチール缶回収量の変化

一方、集団回収量は、分別収集量の10分の1程度だが、2019年度の7,095トンから、毎年減少している（図1）。集団回収量については、上記「3.2 集団回収への影響」で示したように、新型コロナウイルスやその他の影響により減少したまま、もどに戻ることなく2021年度も減少が続いている。

## 4. まとめ

3.1 分別収集への影響においては、2020年度は「回収量が増えた」、2021年度は「回収量が減った」という回答が多数を占めたことから、2021年度は新型コロナウイルスの影響が落ち着いたと推定される。一方で3.2 集団回収への影響では2021年度は一部地域で中止と回答した自治体が2020年度に比べて増加し、理由として新型コロナウイルスの影響を受けていると回答した自治体が多数を占めた。

3.3 スチール缶回収量において、上述3.1と3.2の内容と実際の回収量とは同じ傾向を示していることがわかる。集団回収は新型コロナウイルスなどの影響で活動中止の影響を受けているが、それらの減少分はセーフティーネットの役割を担う分別収集でカバーしたものと思われる。しかし、集団回収は、資源の回収を通して地域コミュニティを活性化するという役割があり、どのようにしてコロナ禍前に戻すかが今後課題になる。

i スチール缶リサイクル協会：スチール缶リサイクル年次レポート(2022)